

審 議 会 等 の 会 議 結 果 報 告 書

課所名

まちづくり整備課

会 議 名 第2回諏訪市上諏訪駅周辺地区基本構想検討委員会

開催日時 令和7年8月25日(月)午後2時00分 から 午後4時30分まで

出 席 者

(委員)
大沢 昌玄委員長、矢島 隆委員、今井 晴彦委員、森 敬芳委員、上條 貴宏委員、鈴木 孝弘委員、山谷 恭博委員、今吉 聡氏(矢口 泰秀委員代理)

(スワ・マチ・ミライ)
長谷川 佳史氏、西尾 京介氏

(事務局)
諏訪市:金子市長、樫尾建設部長、山本まちづくり整備課長、笠原まちづくり整備係長、堀川主査、茅野主査
株式会社 UR リンケージ:西村エグゼクティブ・フェロー、正司マネージャー、石川課長、南課長代理、吉崎氏、三橋氏

(傍聴者)4名

資 料

- ・次第
- ・第2回諏訪市上諏訪駅周辺地区整備基本構想検討委員会資料
- ・スワ・マチ・ミライからの提案書
- ・委員名簿
- ・座席表

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1.開会

(金子市長)

去る 7/27 に諏訪湖スマートインターチェンジが開通となり、地域における交通形態の大きな変化となりました。さらに今後はリニア新幹線の開通も控えています。また、昨今の世界情勢を見ても色々な価値観を尊重し考えなければならない時代です。その中でまちの玄関口であり都市機能誘導区域の中核を担う上諏訪駅周辺地区の構想が地域において魅力・価値・存在感を示すものとなるよう、当検討委員会による協議がより良いものとなることを期待しています。諏訪市としても、構想策定に向けてできる限りサポートしていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2.委嘱状交付

3.議事

(1)上諏訪駅周辺整備基本構想及び検討委員会について (事務局より説明)

(2)第一回検討委員会の意見を踏まえた追加修正について (事務局より説明)

(3)ミライ像(将来像)とミライ方針(基本方針)について

①ミライ像(将来像)(案)とミライ方針(基本方針)(案)の検討について(事務局より説明)

②スワ・マチ・ミライからの提案(スワ・マチ・ミライより説明)

(スワ・マチ・ミライ A 氏)

強くお伝えしたいことがあります。私たちはありきたりな整備を望んでいるのではなく、話題性のある整備を実現してほしいです。予算は限られていますが、シンプルでも独自性のある施設を生み出し、県内外にも誇れる空間をつくることを市民は期待しています。百年に一度の整備ということで、今ここで上諏訪が変わらなければ次に大きく変わるチャンスは来ないかもしれません。駅の目の前に諏訪湖まで見通せる景観があり、木のぬくもりを感じる駅舎は温泉の香りや酒蔵の雰囲気漂い、子どもたちが笑顔を振りまき、自然と人と文化が調和する空間を想像してください。そのような駅前ができれば、諏訪に住む人は誇りを持ち、訪れる人は忘れられない体験を心に刻むでしょう。だからこそありきたりな整備にとどまらず、未来に誇れる挑戦を私たちは望んでいます。

(スワ・マチ・ミライ B 氏)

駅周辺整備は、計画や設計、整備後の活用の検討を通じて初めてエリアの価値が高められるものであり、基本構想策定後においても息長く行われるものです。スワ・マチ・ミライとしては、今回の意見書が基本構想策定の参考となればうれしいですが、今後の様々なステップでも意見書を活用できる機会があればと思っています。

まちづくりは諏訪市だけでなく、公民連携で進めていくことが重要です。また、駅だけでなく、まちを含めて整備を進めることが重要です。スワ・マチ・ミライとしても、今後のまちづくりの進捗に合わせて意見書を見直し発信していきたいと考えています。

③ミライ像(将来像)とミライ方針(基本方針)についての意見交換

(A 委員)

上諏訪駅周辺の将来像を考えるうえでは、空間や機能、施設の運営や市民との関わり方など様々な視点が挙げられます。その中で、スワ・マチ・ミライからの意見書には市民が駅周辺とどのように関わり活動するかという視点があり、事務局案にも盛り込むべきと感じました。また、ミライ方針について、どのような機能を持つ空間を目指しているのか、機能の実現はどのレベルまで行うのかが分かるような内容とするのが良いのではないのでしょうか。

(B 委員)

公共が策定する基本構想や計画、設計案は施設や機能といったハード面の要素が強くなる傾向がありますが、スワ・マチ・ミライからの意見書のように公民がどのように連携し空間を育てていくのかという内容も構想に盛り込んではどうかと思います。設計にデザインを落とし込む際も、ミライ方針で示した要素を各空間に割り当てていくのではなく、公民連携の意見を踏まえながら一緒に作っていくことが重要ではないかと考えます。

(委員長)

- ・事務局案は駅を中心とした空間領域で整理されていますが、スワ・マチ・ミライからの意見書はより広域的な視点で整理されています。それらがうまく融合された構想となればよいのではないのでしょうか。
- ・ミライ方針 3-2 の歴史というキーワードについては、江戸期や日本の近代化、戦後の高度成長期において諏訪が果たした役割等、より詳しく文脈で伝えた方がよいと考えます。
- ・諏訪は四季がはっきりしているという特徴があり、春夏秋冬それぞれの過ごし方という視点を盛り込むのはどうかと思います。その上で、今は夏なので、夏季は暑くて昼間の活動が厳しく、これからの時代は夜間を楽しむという視点があった方がよいのではないのでしょうか。

(C 委員)

- ・「整備基本構想検討にあたり必要な視点の整理」の内容とミライ像・ミライ方針との関係性がより明快になれば、現状の課題に対するミライ像・ミライ方針であることが分かりやすくなると感じました。
- ・上諏訪駅周辺整備においては、線路の移設ができないことを前提に、切符を売る等の機能の移転の可能性や西口と東口それぞれの機能を議論すること等でより良い駅空間の再編ができるかを検討いただきたいです。また、上諏訪駅には 40 年ほど前まで留置線として使われていた線路が残されています。委員長も言及された歴史という視点において、構想策定への参考となれば幸いです。

(A 委員)

線路の移設が可能であれば、駅空間の再編において機能配置の幅が広がると考えられますが、可能性はどのくらいありますか。

(C 委員)

線路の移設に関しては、技術的には接続道路との角度や高さ等の条件により難しいです。さらに、連続立体交差させる案も以前に市が検討したことがあります。費用面の問題で断念となりました。線路の移設はそれなりの費用が掛かり、まちづくりより鉄道にお金をかけることは本末転倒であるため、駅周辺整備と合わせて議論する必要があるといえます。

(D 委員)

上諏訪駅は立地適正化計画における都市誘導区域の中心に位置することを踏まえ、周辺への回遊性の向上といった、駅だけでなく周辺を含めて魅力を高めていくという考え方が重要であると感じました。

(委員長)

従来、駅は鉄道というイメージがありましたが、現在駅は地域に付随する施設というイメージが強くなっており、バスの視点も含まれてきます。資料 1 の 5 ページに示された整備事例はほとんどがそのような駅であるといえます。上諏訪駅も同じように地域に開かれた駅となるよう、周辺との関係性が構想に示されているとよいでしょう。

(委員長)

スワ・マチ・ミライからの意見書や委員からの意見も踏まえ、事務局からミライ像・ミライ方針についての考えをお聞かせください。

(諏訪市)

C 委員からのご指摘もあった通り、空間の創出や機能の再編においてはどの課題を解決するかという視点で様々な可能性を踏まえながら検討を進められればと考えています。課題に対する解決方法については「機能・ゾーニングの検討」において整理していますので、そちらもご説明させていただいた上でまた議論できればと考えています。

(委員長)

- ・公民それぞれの立場で作成されたミライ像・ミライ方針とスワ・マチ・ミライからの意見書は、双方異なる視点が述べられていますが、それらの内容をうまく融合させた構想とできればよいという意見がありました。
- ・鉄道を含めた歴史上の視点を構想に盛り込むべきという意見がありました。
- ・駅を中心に考えるのみならず周辺との関係性を考えるべきとの意見がありました。検討する上では、作成する図面範囲もより広域にして周囲との関係性を示せるとよいでしょう。
- ・公民連携の視点が構想に必要であり、民間の活動やニーズからアプローチして空間を創出できるような構想にすべきという意見がありました。その上で 9 月末に開催される駅前エリアチャレンジは駅周辺の空間に求められるニーズを把握するのに絶好の機会であるのではないのでしょうか。

(4) 機能・ゾーニングの検討について

① 機能・ゾーニングの検討について(事務局より説明)

② 機能・ゾーニングの検討についての意見交換

(E 委員)

整備をステップ 1、2 に分けるという考え方は現実的でよいですが、パンチがないと感じます。時間とお金がかかりますが、一気にステップ 2 を見据えて整備する選択肢もあるのではないのでしょうか。現在の自由通路を使い続けることには新しさがありません。また、資料 1 の 8 ページに示された空間イメージは軒下空間の使い方やデッキ上の視点場等がうまく整理されており良いと感じます。

(A 委員)

- ・現状の東口は広さに課題を抱えており、東口を活用するなら、駅空間の再編においては駅舎の橋上化や西口への機能移転が必要になると感じます。
- ・事務局案は柳並線の軸上に諏訪湖への視点場を設けていること等、諏訪湖や温泉街とのつながりが感じられることは好印象です。一方、諏訪湖を重視しすぎると末広通り側へのつながりが現状より下がっていくことにならないか。両者を活かす空間づくりが必要ではないでしょうか。その上で、現状の保線技術センターの空間は魅力が乏しいですが、柳並線と末広通りの関係性を構築する上で空間を魅力的にすることは重要であるといえます。

(委員長)

末広通りへの繋がりを検討する上で、市民や来訪者が末広通りに至るまでの楽しみ方のシナリオを検討してみたいはいかがでしょうか。

((株)UR リンケージ)

末広通りへの繋がりについては、参考資料 9 ページのワークショップでの意見も参考に、笠森小路の既存店舗と連携した上で既存の駐車場の空間をうまく活用し、末広通りまでの動線を楽しく歩けるような空間とすることを検討しています。

(C 委員)

笠森小路の駐車場の機能再編においては、現状のレンタカー機能やタクシー乗り場の移転も検討可能です。空間や機能の再編については、それに伴う影響を客観的なデータに基づき検証した上で検討されるとよいでしょう。

(C 委員)

ゾーニングを検討する際、駅を中心をどこに置くかということは鉄道の視点において重要です。また、今年度の花火大会も臨時改札の設置や跨線橋閉鎖を行い対応しましたが、そのくらいの利用規模に対応できる機能を検討するのも上諏訪駅には必要と言えます。駅舎の再整備については、全国的に見ても駅利用客や駅員の減少が起きている一方、ICT 技術の導入による駅舎運営の効率化など、これらの要素も加味しながら、費用を抑えた整備ができないかということも念頭に検討いただきたいです。社内においても、橋上化も一つの選択肢として、駅舎の規模・大きさ、タイプを社内で検討している状況です。近々共有できればと考えているので、この結果も加味して機能・ゾーニングの検討をお願いいたします。

(B 委員)

東西駅前広場の交通機能の再編については整備後の改札位置や流入量の変化、所要時間の変化、そもそも送迎者はどこから来ているのか等様々な要素を加味した上でニーズを想定することが重要であると考えます。また、市民意見を参考とする際も、その意見がどの程度客観的データとして正しいかということも意識する必要があります。個人的には面積が小さく末広通りへの動線となる東口については人中心の空間にしてもいいのではないかと考えていますが、例えばそのような意見を参考とする際も、歩いて東西を連絡するとどの程度流れが変わるのか等、客観的データの裏付けがあればよいでしょう。

(委員長)

基本構想においては今後客観的データに基づき検証するという体裁でまとめてもいいのではないで

しょうか。

(F 委員)

駅はまちの中心ではなくまちの中にある施設のの一つと考えています。市のまちづくり、施設が中心であって、その一つに駅があるという考え方が良いと考えます。そのため、まちの施設の一つとしてどのような機能が不足しているかという視点で整備いただきたいです。その上で、現状の西口は広さに対し広場としての機能が不足していると感じています。場の有効活用によりまちとして不足している機能を補うことができると思うので、ステップ 1 で作り替えるより前に、お金をかけずにできることから機能を導入することを試みてもよいのではないのでしょうか。

(G 委員)

- ・西口にバス機能を集約させるという案は国道 20 号とのつながりや一般車との関係性に課題があり、交通機能を西口の特定の一か所に集約することも懸念があります。さらに花火大会時のような交通規制があるとバス機能が止まってしまう、混乱も懸念されます。それらも考慮してゾーニングを明確にお願いしたいです。
- ・交通事業者にとって人手不足が課題の一つであり、将来的な需要予測を正確に行った上での機能再編をお願いしたいです。

(D 委員)

ステップ 2 で示されている駅舎の橋上化はワークショップの意見においても多く望まれており、ぜひ実現してほしいと思っていますが、橋上化のみを整備の目的とせず、橋上化によって生まれた空間の有効活用や、諏訪湖への眺望スペースを設けるなど、橋上化により得られる効果を検討することが重要です。

(委員長)

D 委員の通り、橋上化によって地域にどのような効果を生むのかという視点が重要です。例えば、諏訪湖に近い駅という特徴を前面に出し、諏訪の人々が誇れる場が新たにできるということも効果の一つです。先日開業したグラングリーン大阪に隣接する梅田駅は、「世界有数の大きな公園がある駅」という強みが言えます。上諏訪駅も「世界一湖を近く感じられる駅」という自慢ができる場所をつくるというコンセプトにすると、諏訪の人々の誇りとなり良いのではないのでしょうか。

(C 委員)

視点場について、ドローン等を用いて実際のどの場所、どの高さからどのように見えるかを確認した方がよいでしょう。

(諏訪市)

- ・ステップ 1 とステップ 2 について、ステップ 2 の実現には費用や時間を有することになりますが、交通結節機能の強化等いくつかの内容は先行して行いたいという思いもあり、段階的に整備する方針を提示しました。今後も様々な可能性を加味して引き続き検討していきたいと考えています。
- ・駅舎の改修の方向性については、今回の案が最適解かどうか分からない中作成しています。改めて JR 様の知見も伺いつつ、双方協力して検討していければと考えています。
- ・客観的データについては次年度以降基本計画を進めていく中で具体的な調査を行い基本構想でま

とめた内容の検証を行えればと考えています。

(委員長)

段階的な整備を考える際、状況に応じて必要な段階を踏みつつステップ2に向かっていくのではなく、ステップ2を最終目標としてその実現のために必要な段階を踏んでいくというアプローチが重要です。

(B 委員)

資源のショーケース機能を西口に配置していますが、これは机上のゾーニングで検討するだけでなく、ビジネスや商売の視点に立ち何をどこで発信すべきかということを公民連携で考えていくことが重要です。また、そのような場は最初に作りこむのではなく、試しながら作り上げていくことが必要です。

(委員長)

完璧なものが求められ、初めから作りこんでいた時代とは今は異なります。余白を作り試しながら作り上げていくことを考えていただければと思います。

(委員長)

導入機能案として資料1の7ページに記載されている「災害時における駅利用者の一時避難にも対応した広場」については考え方の見直しが必要で、例えば電車が来るまでの時間や、災害時や電車遅延等により駅で時間を費やすことになった際も、結果的にその滞在を楽しめるような仕掛けを作るという考えがよいのではないのでしょうか。また、災害を考える際は、自然災害のみならず、停電や ICT の不具合等情報に関する災害も視野に入れてもいいのではないのでしょうか。

(C 委員)

来訪者が駅で時間を費やすという視点において、ホームで足湯を楽しめるという機能は全国的にも先進的な事例と言えます。このような滞在を楽しめる機能を昔から取り入れていたということは今後も大切にしたいです。

(委員長)

- ・本日の様々なご意見を踏まえて、検討を深めていってもらえるとよいかと思います。
- ・資料 I の 7 ページに示されたスケジュールは事業者の視点で作成いただけていますが、利用者の視点でどう空間を育てていくかのスケジュールも付け加えてはいかがでしょうか。

(諏訪市)

今後、いただいたご意見をもとに事務局で検討を進めます。

4.閉会